

# CDP フォレスト 2020 日本概要報告

2021年1月14日

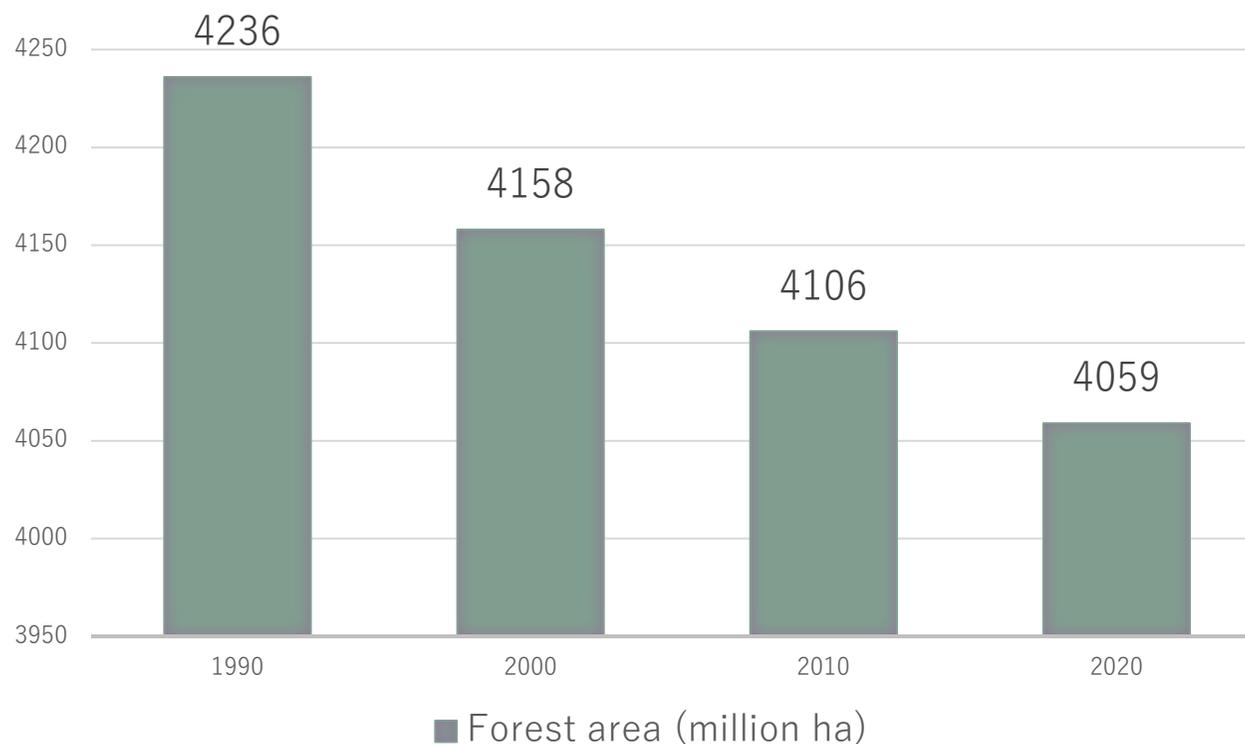
株式会社QUICK ESG研究所  
常務執行役員 / リサーチ本部主幹 広瀬悦哉

# 世界の森林減少の現状

## ～森林面積は30年で4%減少～

1990年から2020年までの30年間で、世界の森林面積は、42億3,600万haから、40億590万ha、**1億7,700万ha (▲4%)** 減少している。陸地全体に占める森林の割合は、32.5%から31.1%となり、**全陸地の1.4%にあたる面積の森林が消失したことになる。**

世界の森林面積



# 世界の森林減少の現状

## ～熱帯林の減少が著しい～

1990年から2020年の30年で、**熱帯林は、年平均で11.6%減少した**。これは、**世界全体の森林減少の90%以上にあたる**。

### 【森林減少（Deforestation rate） Million ha/year】

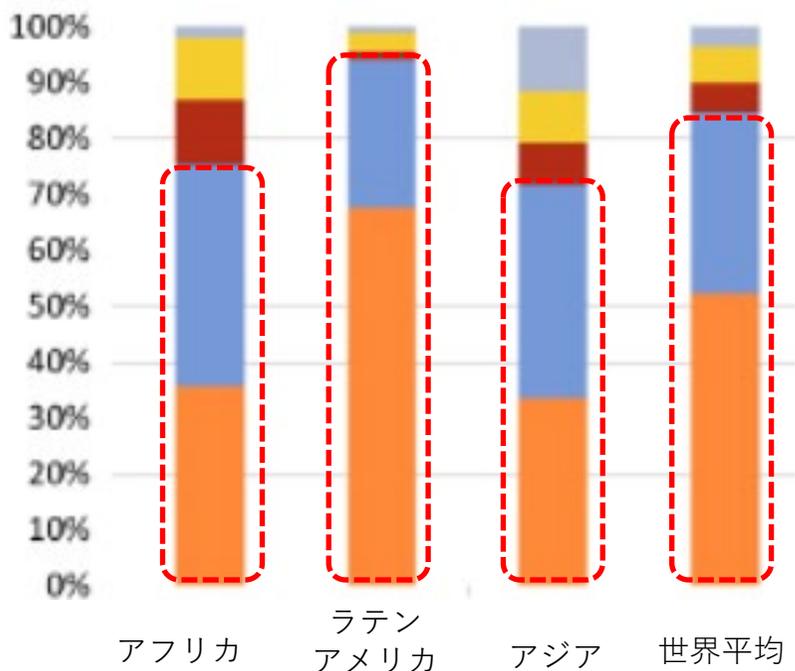
| 気候帯  | 1990-2000 | 2000-2010 | 2010-2015 | 2015-2020 |
|------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 針葉樹林 | 0.10      | 0.09      | 0.13      | 0.06      |
| 温帯林  | 0.49      | 0.54      | 0.53      | 0.31      |
| 亜熱帯林 | 1.44      | 1.35      | 0.88      | 0.50      |
| 熱帯林  | 13.80     | 13.20     | 10.30     | 9.30      |
| 合計   | 15.80     | 15.10     | 11.80     | 10.20     |

# 世界の森林減少の現状

## ～主な要因は農業生産活動による森林の伐採～

農業生産活動は森林減少の主な要因の一つ。なかでも**商業農業は、樹木を伐採して土地を開墾するため、森林破壊の主な要因**となっている。

地域別森林減少要因  
(2000-2010)



森林伐採リスクにかかわる  
主なコモディティ



畜牛品



パーム油



ゴム



大豆



木材

商業農業
  鉱業
  都市開発  
 自給自足農業
  インフラ整備

出所：（左）An assessment of deforestation and forest degradation drivers in developing countries, 2012, Hosonuma

（右）CDP HP公開資料をもとにESG研究所作成

Confidential

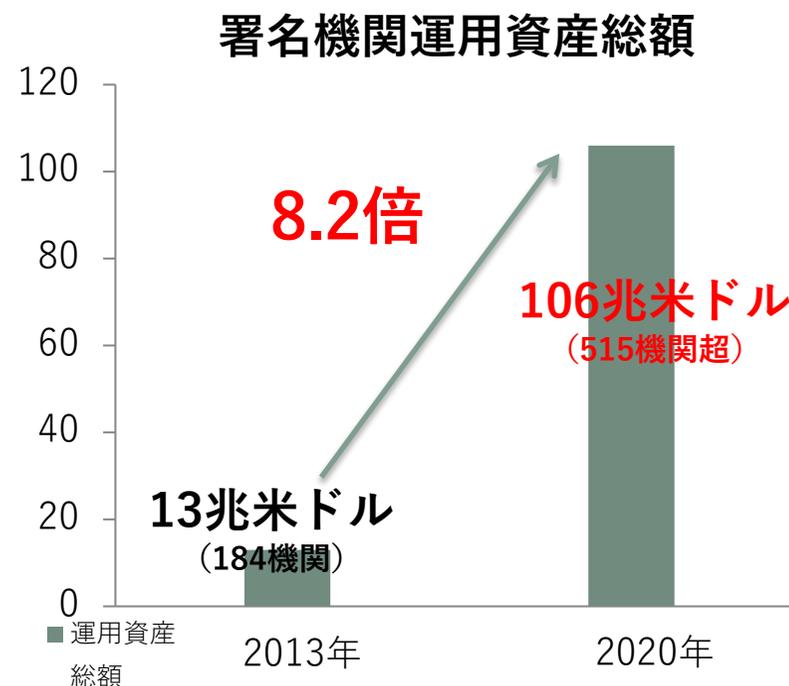
情報開示対象となる森林コモディティは、畜牛品、大豆、パーム油、木材、（ゴム）の5つ。企業は、自社事業に関連するコモディティについて回答を求められる。

|  |  | 2020年質問書の構成   | 概要                               |
|--|--|---------------|----------------------------------|
|  | <br>畜牛品 | F0. イントロダクション | 回答企業の概要と回答範囲                     |
|  |  | F1. 現状        | 森林伐採リスクに関する回答企業の現状               |
|  |  | F2. リスク評価     | 森林伐採リスクに関する評価                    |
|  |  | F3. リスクと機会    | 森林伐採リスクに関する認識、森林伐採防止に関わる事業機会     |
|  |  | F4. ガバナンス     | 森林伐採課題の取締役会の監督、インセンティブの有無        |
|  |  | F5. 事業戦略      | ビジネス戦略への森林伐採課題の組み入れ、考慮           |
|  |  | F6. 対応        | 森林伐採課題に対する目標、トレーサビリティ、サプライヤーとの協働 |
|  |  | F7. 検証        | 外部検証                             |
|  |  | F8. 障害と課題     | 森林伐採防止に対する障害と課題                  |
|  |  | ・・・（セクター別質問）  | ・・・（セクター別質問）                     |
| その他  | F17. サインオフ   | 承認者情報         |                                  |

# CDPフォレストとは

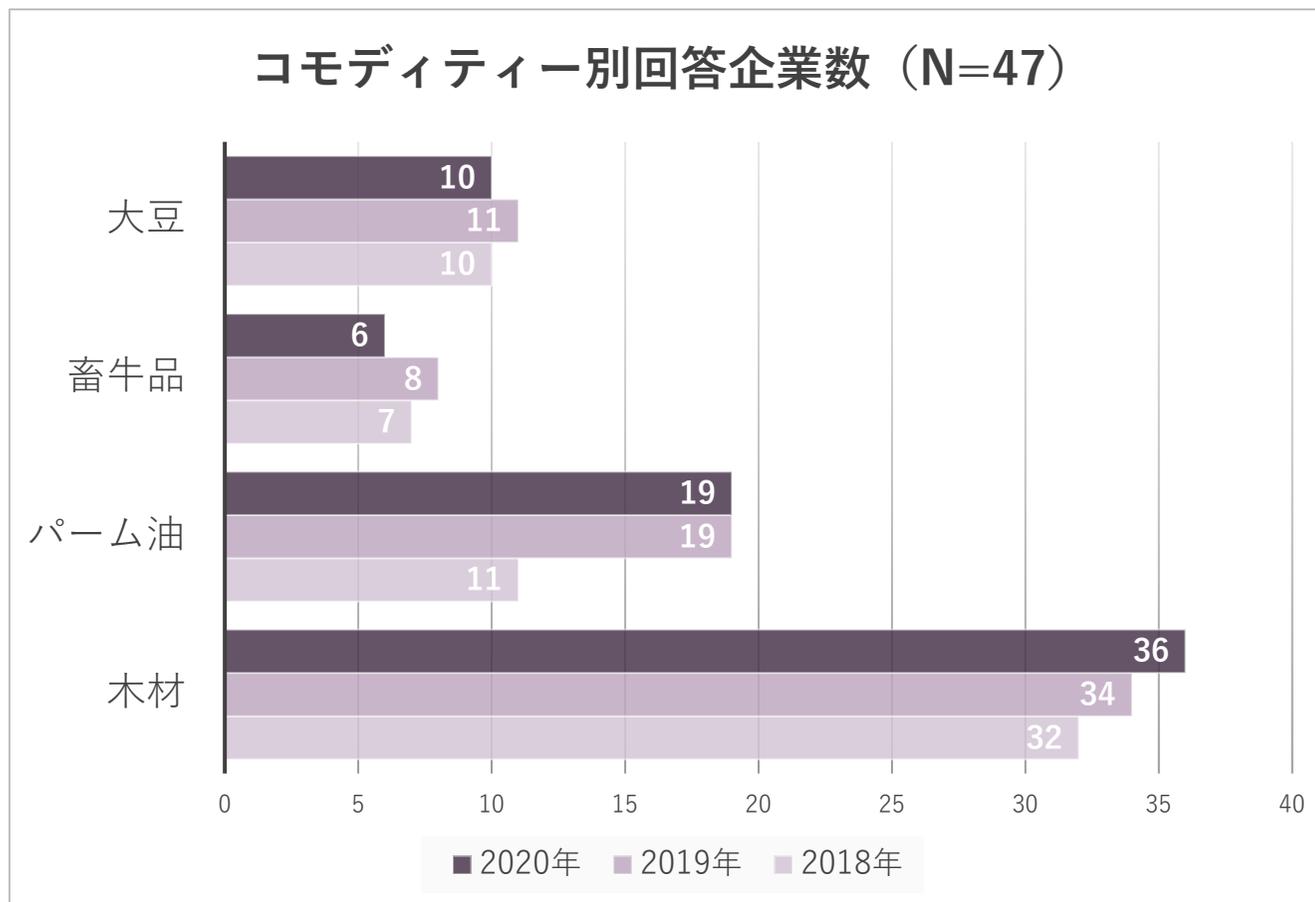
CDPフォレストは、2013年に開始された。2020年度の署名機関投資家数は**515機関**を超え、その運用資産総額は、2013年から**8.2倍**に増加した。

| 森林                         |                                    |
|----------------------------|------------------------------------|
| プログラム開始年<br>(グローバル)        | 2013年                              |
| 署名機関投資家数<br>2020年          | 515超                               |
| 署名機関投資家<br>運用資産総額<br>2020年 | 106兆米ドル<br>(約1京1,024兆円)            |
| 質問書送付対象社数と<br>選定条件 (2020年) | 176社<br>森林リスク商品に深く関連<br>する企業を対象に選定 |



# 質問書回答企業数

質問送付先企業数は176社で、自主回答企業1社を含む**47社から回答があり、回答率は27%**であった。



# 評価結果：Aリスト企業

2020年度、日本では不二製油グループ本社（パーム油）と花王（パーム油）の2社がAリストに選定された。一方、A-を得た日本企業は、昨年の6社から、住友商事株式会社（木材）、花王（木材）の2社に減少した。

## 【2020年度 森林プログラムAリスト企業】

| 企業名        | セクター                     | コモディティ |
|------------|--------------------------|--------|
| 不二製油グループ本社 | Food, beverage & tobacco | パーム油   |
| 花王         | General                  | パーム油   |

## 【2020年度 森林プログラムA-企業】

| 企業名  | セクター    | コモディティ |
|------|---------|--------|
| 花王   | General | 木材     |
| 住友商事 | General | 木材     |

# 回答分析結果： Key Findings

2020年、質問書が送付された企業数は176社で、自主回答企業1社を含む**47社から回答があり、回答率は27%**。グループ親会社により回答した企業が3社あった。

## 【リスクと機会】

- 森林関連リスクを評価していると回答した企業は、38社
- **木材とパーム油では8割を超える企業がリスクと同時に機会を認識している**

## 【ガバナンス】

- 森林に関する方針を策定していると回答した企業は、41社
- ガバナンス体制として、**39社が取締役会において森林関連の課題を監督している**と回答

## 【森林減少への対応】

- 森林減少や森林破壊の防止に向けた取組みを、公的にコミットしていると回答した企業は、32社であった。また、**数値的な目標をもっている企業も36社あった。**

## 【サプライヤーとの協働】

- 「一次サプライヤーにおける**持続可能な原材料の供給能力を向上し、改善するために協働**している」と回答した企業は、木材、パーム油、畜牛、大豆、それぞれ、26社、14社、4社、7社
- 二次以下のサプライヤーと協働していると回答した企業は、木材、パーム油、畜牛、大豆で、それぞれ、19社、6社、0社、1社

# 回答分析結果： Key Findings

- 最も改善がみられたのは、「F4.4:森林関連のリスクへの対応に関する情報をメインフレーム報告書に開示している企業数」の質問で、“Yes”を回答した日本企業は、**13社から25社へ増加、回答社数割合としても、30%から58%へと大きく増加し、森林関連リスクに関してもメインフレーム報告書での開示が進展していることがわかる。**
- その他、以下の質問で大きな改善傾向がみられた。（昨年比）

|      | 質問                               | 回答企業数<br>(昨年比) | 回答企業割合<br>(昨年比)       |
|------|----------------------------------|----------------|-----------------------|
| F4.1 | 森林関連課題について取締役会レベルが監督している企業数、企業割合 | 39社<br>(+ 4社)  | <b>91%</b><br>(+10%)  |
| F6.1 | 森林関連目標を設定している企業数、企業割合            | 36社<br>(+ 6社)  | <b>82%</b><br>(+ 12%) |
| F6.9 | 二次以降のサプライヤーとの協働を行っている企業数、企業割合    | 23社<br>(+ 6社)  | <b>66%</b><br>(+ 13%) |

# 回答分析結果： Key Findings

▶ 2020年度に新たに追加された以下の質問への回答状況は、以下のとおり。

F6.4: 森転換および/または森林減少なしの誓約の順守を管理、監視、または検証するためのシステムをもっている企業数、企業数割合は、22社、55%

F6.6: 開示したコモディティーに関して、森林規制および/または必須規格の貴社自身の順守および/またはサプライヤーの順守を評価している企業数、企業割合は、31社、91%

F6.11: 生態系復元や保護に焦点を合わせたプロジェクト支援を実施している企業数、企業数割合は、28社 65%

ESG課題や責任投資に関する研究を専門とするアナリスト、コンサルタントを擁し、機関投資家、保険会社、銀行、証券会社、および企業にESGリサーチデータ、分析レポート、および戦略アドバイザリーサービスを提供する

- 2014年4月 「QUICK EIRIS ESGサービス」の提供を開始
- 2014年4月 Vigeo Eirisとパートナーシップ契約を締結
- 2014年10月 年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）の「年金積立金管理運用独立行政法人におけるスチュワードシップ責任及びESG投資のあり方についての調査研究業務」を受託
- 2015年2月 事業法人向けアドバイザリーサービス「QUICK ESGサービス for Corporation」を開始
- 2015年5月 「QUICK ESG研究所ポータルサイト」を開設
- 2016年2月 米議決権行使助言会社大手 グラスルイス（GLASS LEWIS）とパートナーシップ契約を締結
- 2016年7月 CDP Water のスコアリングパートナーに認定
- 2017年7月 CDP Climate Change, Forestのスコアリングパートナーに認定
- 2017年11月 FTSE Russell 公式データベース使用ライセンス取得
- 2019年6月 Arabesque S-Rayとパートナーシップ契約を締結

## 【国際的な活動】

PRI署名機関

CDPゴールドデータパートナー、スコアリングパートナー、レポートパートナー

JSIF法人会員、理事

RI (Responsible Investor) Asia Japan 2014、2015 共同スポンサー、2016、2017、2018、2019リードスポンサー

Vigeoeirisパートナー

Glass Lewis パートナー

FTSE Russell パートナー (ESG Ratings Data Model:FTSE Russell ESG Module & Ratings)

Arabesque S-Ray パートナー

# QUICK ESG 研究所について

QUICK ESG研究所 ポータルサイト <https://www.esg.quick.co.jp>

QuickESG研究所 責任投資の最前線

ログイン 会員登録 無料メルマガ登録 お問い合わせ

ESG研究所 Why QUICK ESG

サービス Services

リサーチレポート Research

お知らせ What's new

メディア掲載情報 QUICK ESG in Media

ブログ Blog

リサーチ記事検索

- ジャンルから探す
- 業界から探す
- 地域から探す
- カテゴリから探す

【国際】PRI、日本のESG投資や受託者責任の現状と提言をま

ESG情報開示を促す動きが賑やかだ。

続きを読む

What's New お知らせ

2017年1月13日

【お知らせ】QUICKが「グラスルイス 議決権行使管理」プラットフォームを大和証券投資信託委託に提供開始

2017年1月13日

【お知らせ】QUICK ESG研究所主催 上場企業対象セミナー「GLASS LEWIS with QUICK」～日本語ステewardシップ・コード改訂が及ぼす議決権行使への影響～のご案内

2016年12月16日

【セミナー開催報告】QUICK ESG研究所主催

Research リサーチレポート

2017年5月12日

【水口教授のヨーロッパ通信】ロンドン証券取引所のESGレポートングガイダンスが意味すること

2017年2月、世界の主要取引所の一角であ

Events イベント

2017年5月25日

CDPサプライチェーン2017 - ワークショップ第一回

開催日 2017/05/23 (火)

2017年5月25日

RI Europe 2017 LONDON

開催日 2017/06/06 (火)

2017年5月24日

ワークショップ2017 第二回